1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

Keyword.2 協力

真夏の原風景

祭り。それは、違う自分になれる日。あの人との距離が縮む日。大人も子供に戻れる日。嫌なことを全部忘れられる日。心踊らせ、胸弾ませた夏の風景をカメラが追いました。

協力して描く夏の風物詩

縄文の炎・藤沢野焼祭は今年で40回。8月9日に開かれた祭りは、古代縄文式野焼きの原型を復元しようと実践考古学者塩野半十郎氏（故人）が提唱、藤沢焼窯元・本間伸一氏らが中心となって始めた土と炎の祭典です。

縄文人に扮した藤沢中男子生徒たちが、木をこすり合わせて種火をおこします。小さな炎は、丸太を井げた状に組んだ祭りのシンボル「縄文の炎」に点火されます。炎は、巨大な火柱となって、大地を真っ赤に照らしました。

野焼祭は、過疎から古里を再生したまちづくりの歴史でもあります。祭りを築いてきたエネルギーは、地域、住民、行政が、互いに協力し合って生み出されます。この力こそが、まちづくりの原動力と言っても過言ではありません。

各地で行われた夏の祭りには、地域を愛する心と、苦難を乗り越えた不屈の精神が宿っています。この気高き文化を、協力して後世へつなぐことは、今に生きる私たちの使命です。

1 個性あふれる作品を豪快に焼き上げる「藤沢野焼祭」／2 藤沢中の男子生徒が縄文時代を再現した道具を使って火をおこした／3 藤沢スペシャルマーチングバンドが息の合った演奏で会場を盛り上げた／4 祭りのシンボル「縄文の炎」／5、6 「花泉夏まつり・日本一のもちつき大会」は8月1、2日の両日、花泉支所前駐車場で開かれた。18団体が力強いもちつきやパフォーマンスを披露／7、13、14 8月7日から行われた「一関夏まつり」では、3日間を通してさまざまなイベントが行われた。七夕飾りに彩られたまちが、熱気と歓声に包まれた／8、9 7月25日の「千厩夏まつり」では踊り手と山車が商店街を練り歩いた／10、11 8月13～15日の「摺沢水晶あんどん祭り」では町中に約400個のあんどんが優しくともった／12 8月15日の「大原だるま祭り」では新成人が手作りのだるまを担いで商店街を駆け抜けた／15 住民参加型の「むろね夏まつり」。恒例の大縄跳びで盛り上がった／16 第45回おらが自慢のでっかい花火」は8月16日、北上川河畔をステージに、川面を照らす水中花火やスターマインなど大小約1万発の花火が夜空を彩った